芸豪烈伝その30

故・松葉薫（まつばかおる）　岩崎節子（いわさきせつこ）

浪曲が、はぐくんだ永遠の夫婦愛

写真・森幸一ほか　文・おさだ衛

まつば・かおる　本名・岩崎保雄。一九二〇（大正9）年3月26日、新潟県うまれ。12歳で木村重友に弟子入り。年期は20歳まで。入門金は50円だった。芸名は木村友之介から小友。39（昭和14）年に岩崎節子と結婚。49（昭和24）年に松葉薫で看板披露。57（昭和32）年、引退。71（昭和46）年に木馬亭でカムバック。昨年8月に76歳で逝去。十八番は『河内山』『越の海』ほか。

松葉もの　枯れて落ちても二人づれ。

松葉薫が脳梗塞で亡くなったのが昨年の8月。結婚生活55年、薫師を支え、また名曲師として定評がある岩崎節子師に薫師の思い出話をうかがった。

「芸人らしい芸人でしたね、うちのおとうさんは。芸も好きでしたけど、女ずきでパチンコ狂でした。お酒は飲まれるほうで、兵隊時代はおちょこ一杯で身体が震えるほど弱かった人でしたけどね。ヒロポンも打ったり、いろいろありましたね。

女はね、私は一度、相手先に乗り込んだことがあるんですよ。こっちにはさんざん貧乏させておいて女なんか作ってね。私もきかないほうですから。別れようとして林伯猿師匠になだめられたこともありました」

初代・木村重友と、名曲師で夫人の友香。重友は生粋の関東節で一世を風靡した浪曲界の立役者。重友が確立したネタも多く『河内と直侍』などは松葉薫を経て現在は玉川福太郎に受け継がれている。

と薫師の一周忌をすませた岩崎節子師匠は遠い日を懐かしむように語る。

松葉薫は「看板」ではなかったが、叩きあげた関東節と愛嬌があり人柄の良さが伝わる舞台で落語の立川談志をはじめ、たくさんの浪曲ファンに愛された。子供が出るネタが得意で『ねずみ小僧』は特に印象に残る。ねずみ小僧と子供の掛け合いが笑わせた。

「坊や、年はいくつだ」「まからねえところが17だ」「17にしちゃ、小せえな」「小さくても実が詰まってらあ」「まるで、とうもろこしだな」「馬鹿にすんねえ」「こいつあ、だいぶ熱が高えや」

洒脱で軽妙な高座だった。マクラではいつも師匠の初代・木村重友（しげとも）（昭和14年没）を回顧した。

「重友は27歳という遅い年齢で浪界いりしたんですが前座はたったの1回しか勤めていない。素晴らしい芸なんで、すぐ真打ちになっちゃった。私が12歳で弟子入りしたときは師匠は47歳。家は東京の神谷町で3階だて、弟子もたくさんいて大変な勢いだった。師匠は58歳で中気で死んだんですが、そのときでも妾が7人いましたよ。

師匠は私たち弟子連中に常々いってました。しゃべりは講談、笑いは落語で所作は芝居でいけと。私も勉強しましたよ」

師・重友を慕う薫師は、薫という芸名に重友の重の字をいただいていた。

さて岩崎節子師は東京・麹町の出身薫師と同年うまれの77歳。父が興行師で寄席を経営していたこともあり、三味線の音色は幼少の頃から耳になじんでいた。19歳から浪曲の三味線を本格的に習い始める。中国大陸での巡業で薫師（当時は木村小友）と深く愛し合い、周囲の反対を押し切り結婚した。そして4人の子供をもうけた。

「うちのおとうさんは、すぐにばれる嘘をつくんですよ。人間は、いい人でした。写真はアルバムに貼りきれないほどあるし思い出は尽きませんね」

節子師は歯切れのいい口調で言葉によどみがない。お身体も健康で、日暮里の自宅から浅草・木馬亭までいまもなお自転車をこいでやってくる。

「それが先日、ハンドルをきりそこねて駐輪場に突っ込んで胸を強く打って仕事を休んでしまったの。娘からは自転車はやめなさいって言われて。そろそろ、年かしらね」

浪曲の三味線を弾いて45年。多くの浪曲家に呼吸をあわせてきた。

「二代目の相模太郎は酒がもとで亡くなりました。惜しい人でした。

玉川良一も10年ちかくテレビや刑務所の慰問で全国を回りました。たまちゃんは舞台同様おもしろい人でした。

先代の木村松太郎さんも弾いてました。あの先生もマクラが長いんです。お客さんから、いいかげんにしろ、早く節をやれって声が掛かるのを適当にあしらってね。楽しいおじいちゃんでしたよ」

節子師の座右の銘は努力。

「人間どんなうまいことを言っても努力をしないと浪曲も三味線もうまくなりません」

浪曲が好きだった亡き夫のために一日でも長く三味線を弾き続けるのが一番の供養と、節子師は信じている。

昭和14年。結婚披露の記念写真。ういういしさが漂う新郎新婦。薫師、節子師ともに満年齢は19歳。熱烈な恋愛結婚だった。

二代目・相模太郎（写真・右）の合い三味線のころ。真ん中の節子師を挟んで漫才の内海桂子・好江。左は落語の入船亭扇橋。

今は若手の国本武春の合い三味線をつとめる。音締めの良さと掛け声のさわやかさ。武春の成長を促したのは節子師の自在なバチさばきといっても過言ではない。（木馬亭の楽屋にて）

浪曲…これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

浪曲家の皆さん…頑張って下さい。

多くのファンを楽しませて下さい。

33/52

葛飾区・坂本豊吉